



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 FAX 045-571-3834

第5回 さくら植樹と友好親善訪問 報告



さくらの苗木をスペインの巡礼路へ植樹と市民交流

横浜スペイン協会会長 下山利明

2015年9月の25周年記念、第4回さくら植樹から早や2年が経過しました。今回、9月20日21日の2日間、前回訪問したスペイン・レオン県ビエルソ郡を再訪し、新たな場所での3ヶ所の植樹と2ヶ所での市民交流会を大盛況の上、成功裏に執り行う事が出来ました。参加者12名は18日夜、マドリードのホテルに三々五々集合し、翌朝レオン県での植樹に先立ち、マドリードの在スペイン日本国大使館を表敬訪問しました。水上正史特命全権大使とのご面会の機会を頂き、当横浜スペイン協会の設立趣旨、活動計画、さくら植樹を通じた市民・文化交流に対する私たちの思いをご説明しました。水上大使は、我々の草の根活動の意義を讃え、今後も日本とスペインの相互理解と友好の為に尽くしてほしいと激励して下さいました。ビエルソでの初日は Priaranza 町役場を表敬訪問、Priaranza 町長の José Manuel Blanco Gómez 氏と Carucedo 町長の Alfonso Fernández Pacios 氏らの歓迎を受け、私から返礼の挨拶をさせて頂きました。その後、「冬の道」巡礼路と世界遺産である Las Médulas 金鉱の公園の2ヶ所に植樹。そして2年前に植樹した Palacio de Canedo を訪問し順調に苗木が育成していることを確認しひと安心いたしました。夜は歓迎夕食会にて良く食べ、飲み懇親を深めました。2日目、まずは地元の Colegio Público(5-12歳までの子供が所属の学校)を訪問。交流の時間は授業の一環として扱われ、クイズ形式での日本と横浜の紹介、吹き矢ゲーム、折り紙の実演展示を行いました。子供達にとって日本は人気のアニメ以外に知らなかったようですが、3つの企画にとっても興味を持ち、真剣なまなざしでクイズの質問に答えていたのがとても印象的でした。これを機に、少しでも日本を知ってもらい、次の世代に交流の場が繋がることを心から願いました。この後、Carucedo 湖畔での植樹後、「冬の道」の巡礼体験、そして先回と同じ、Villalibre de la Jurisdicción 町の公民館にて2回目の市民交流会を開催しました。15名くら

いの方が参加してクイズ、吹き矢、折り紙実演で楽しい時間を共有しました。最後の晩は、当協会より返礼夕食会を開催しました。2日間という短い間でしたが、朝から夜遅くまで行動を共にして植樹・市民交流の時間を共有したせいか、終始、打ち解けて和やかな雰囲気の中で別れを惜しみながらビエルソでの最後の晩を楽しみました。今回も、先回と同じく、さくら植樹プロジェクト委員の間屋正勝氏と Priaranza 町長の José Manuel Blanco Gómez 氏の両名が、宿・マイクロバス・関係者とのスケジュール調整等々、素晴らしいコーディネートをしてくださいました。また、スペイン三菱商事社長の東潔氏には、日本大使館とのコンタクト及び 150 周年記念行事についてのお話を伺い大変お世話になったことに感謝の意を表したいと思います。当協会の事業内容の最初に書いてあるのは、「桜をスペインに植樹し、スペインとの文化交流を図る」です。この趣旨に賛同された創設者の方々の志は今も受け継いでおります。今後もこの事業は継続して行って参ります。多くの会員の方々に参加して頂きスペインと日本の友好親善関係の絆を皆で更に強めて参りたいと考えております。



水上大使表敬訪問
「冬の道」巡礼路にさくら植樹
Priaranza 町長室 記念品の書
巡礼体験 Cornatel 城
Carcedo 町の子供たちと学校で
(時計回り)

🌸 さくら植樹と友好親善に参加された方々からの一言 🌸

🌸 フランスとの国境の町サンジャン・ピエ・ド・ポーからきたサンティアゴ巡礼路（フランス人の道）はポンフェラダ市で「フランス人の道」と「冬の道」の二つに分かれます。「フランス人の道」は最後の難所セブレイロ峠（1400m）を超えて最終目的地サンティアゴ・デ・コンポステーラへ向かいます。「冬の道」はこのセブレイロ峠を南に巻いてローマ時代の金鉱ラス・メデウラス（世界遺産）を経由してサンティアゴ・デ・コンポステーラに向かいます。我々はこの「冬の道」沿いにある三カ所で桜の植樹を中心とする交流会を実施しました。この地域は山がちで、緑が多く日本の風景と似たところがあります。縁があって始まったこの交流が末永く続くことを願っています。
(間屋正勝)

🌸 始めて訪れたスペイン。スペイン中央部に広がる乾いたメセタの大地をマドリッドから AVE に乗り北に向かうと 4 時間ほどすると次第に緑が増えてくる。訪問 1 日目、山間の道を抜け訪問地、小さな町プリアランサ町に到着する。この周辺は緑豊かで、まるで信州あたりの緑豊かな潤いのある風景になる。町では親しみをもって暖かい歓迎を受けた。その後、2 日間にわたりさくらの植樹

の実施やローマの時代からある金山や水道橋などの驚くほどの技術をもった文化遺産、中世の時代からの巡礼地に向かう城塞の見学や見どころ満載だった巡礼路の体験、この地域の豊かな動植物の保護や生態に携わる環境保護者や研究者との交流等、また小学生の子供たちや、町民の人たちとの日本や、横浜の街に関するクイズ、吹き矢のゲーム、そして折り紙遊び等。日本文化の紹介を楽しみながら行いました。盛りだくさんで大変忙しいサクラ植樹でしたが、楽しく貴重な時間を過ごしました。



これからもスペイン各地の町との交流を続け日西の文化交流が行えればと思います。(武菱邦夫)

🌸 今回の桜植樹の旅は、参加者全員が十分な準備をして臨み、予想以上の成果を得たと思います。私は折り紙を担当しました。「くるんくるん」という花火の折り紙が気に入り、二ヶ月間ひたすらこの作品を折り続けました。幼児向けには「顔なしのピカチュウ」を折り、子供達に顔を描き込んでもらうことにしました。こうして私のスーツケースの半分は折り紙の作品の箱で一杯になってしまいました。折り紙を前に目を輝かしていた子供達の姿が今でも忘れられません。一方、訪問先でもプリアランサ町のブランコさんを中心に周到な準備のもと、私達を歓迎してくださいました。こうした双方の深い想いが素晴らしい交流に繋がったのだと思います。草の根交流の大切さを実感した思い出深い旅となりました。(服部君江)

🌸 スペインの大地に桜を植えるという夢のような企画に妻と娘とで参加させていただきました。植樹もさることながら、小学生やご婦人たちとの市民交流は、言葉の壁を乗り越え(永久入門レベルの私にとってはですが)和気あいあいと楽しい時間となりました。私は横浜クイズと題しクイズ形式で日本や横浜の地理や文化をお話ししました。冒頭日本語も取り上げ、みんなに幾つかの単語



を復唱してもらいました。少しでも覚えてくれたらなあと思っていましたら、帰りがけ小学生たちがサヨナラと声をかけてくれとても感激しました。今回、スケージュアリングから現地での引率・通訳など何から何までお世話になった問屋さん、ほぼフルアテンドしていただいたお二人の町長やヒメナさん、クイズコーナーで手助けというか全面的に頼ってしまった校長先生、それに3日間ご一緒したミッションの皆さま、紙面を借りお礼申し上げます。(臼井慎一)

🌸 メンバーのパワーにびっくり！これが今回のミッションに参加しての一番の感想です。まる2日間、植樹、交流、巡礼路散策、夜9時に始まる食事会まで、ピッタリと組まれたスケジュールを皆が精力的にこなしました。全てを無事に終わることが出来たのは、メンバーが和気あいあいと協力し合いながら楽しく各行事ができたからだと思います。そして、お昼も夜もたっぷりのお食事をエネルギーとして体に詰め込む事も、スペインではパワフルに動くのに大事なのだと知りました!?(下山綾子)

🌸 さくら植樹と文化交流の旅に初めて参加をさせていただきました。植樹も文化交流も「最初の一歩」いつか小さな芽が息吹、枝が繋がっていくように横浜スペイン協会の活動が大きな年輪になることでしょう！文化交流では、吹き矢や折り紙を体験する子供達のキラキラした目と笑顔と一生懸命さが印象的でした。普通の旅行ではなかなか訪れることのないLeonを堪能することも出来、盛り沢山の楽しい旅でした。現地解散後、マドリッド在住の鈴木様にイサベル女王の生地にご案内頂き修道院やお城も興味深く見学



させて頂きました。10月12日から135チャンネルでスタート、イサベル～波乱のスペイン女王～

スペインを統一に導いた偉大な女王・イサベル1世の人生を描く歴史ドラマだそうです。今回の旅と繋がり楽しみです。会長を始め御一緒させて頂いた皆様、ご準備や現地での活躍には頭が下がります。皆様には本当にお世話になり、ありがとうございました。感謝をこめて（大戸尚美）

🌸BIERZO 地方は、40年前に一度だけ仕事で訪問したきりでスペインに住みながら旅行する機会ありませんでしたので、今回の文化交流桜植樹は大変興味ある経験となりました。下山会長はじめ参加された皆様の情熱と素晴らしい献身的ご活躍ぶりを拝見できました。現地の人達の日本に対する理解に何らかの形で貢献できたと考えます。栗林と桜林しかない所と想像していましたのでPALACIO DE CANEDOの美しくデラックスなワイナリーホテルの立派な存在には驚きました。世界遺産メドウラス金鉱跡やサンチアゴ巡礼路が近くにあるので、近年旅行者が増加しこのような豪華な施設ができたのだと思います。現地関係者との密接な繋がりある問屋さんのお蔭で、全てのスケジュールがスムーズに運ばれ、又流暢な通訳で我々には分かりにくい訪問地の事が良く分かりとても有意義でした。（鈴木裕）

🌸生まれて初めてスペインへ行かせていただき 記念すべき植樹の旅に参加することが出来、非常に嬉しく思います。駐スペイン水日本国大使閣下との面談に始まり植樹のイベント・文化交流 更にはラスメデュラス世界遺産訪問等盛りだくさんのスケジュールを企画・実行された皆様各位のご尽力に感謝申し上げます。濃縮された密度の濃い時間を皆さまと過ごさせていただき非常に感謝しております。在スペイン40年超の鈴木様のご親切にも心より御礼申し上げます。実りの多い植樹の旅に参加させていただき 本当に印象深い旅でございました。誠に有難うございました。（本間一彦）



🌸スペイン植樹の旅に参加させていただき、始めてスペインの地を訪れました。先ず、在スペイン日本大使館への表敬訪問から始まり、その後2日間かけて巡礼街道への桜の植樹、現地の方々との交流など様々なイベントがありました。すべてが貴重な体験となり、良き思い出になりました。ありがとうございました。また桜の花が咲く季節に、この地を訪れる事が出来ればと思っております。（大谷博子）

🌸私の実家で家宝とも言える瓢箪柄の陣羽織（現在は国立京都博物館で保存）が50年ほど、前に、スペインに渡って展示され親善の役割を果たしたことがあり、スペインには親近感を感じていました。今回植樹の一員に加えさせていただき、スペインの方々特に子供たちの笑顔に出会え、また樹齢何百年になるかと思う栗の大木を見ながら巡礼の道を気持ちよく歩き、ブドウ畑を見学するなど大変楽しく過ごすことができました。皆様に感謝するとともに、横浜スペイン協会の益々のご活躍を祈念しております。（臼井章子）

🌸この度、父を通じて母と参加させて頂きましたが、期待以上に充実した貴重な経験をさせて頂きました。会長夫妻を始め参加者の皆さんの温かいサポートはもちろん、問屋さんの日々のご活動のお話は感銘を受けました。現地でお別れのご挨拶ができなかった為、この場をお借りしお礼申し上げます。私がスペイン語を学んだラテン圏では両親の友達まで皆顔見知りの仲が当然ですが、日本にはその文化が乏しく、淋しく思っていた為、父のコミュニティに参加できたことが何より嬉しく、今までの家族の旅でも一生の思い出となりました。スペインも同様に家族の友人とも親しいのが一般的だそうで、協会の方はじめ日本にもそのような家族を大事にする風習がもっと広がればと願っております。（太田真紀子）



ホセ・アントニオ・デオリ文化参事官 横浜外人墓地墓参

2017.8.25 於横浜外人墓地・ポートヒル横浜

8月25日スペイン大使館デオリ文化参事官が外人墓地への墓参に来られました。墓参に先立ち参事官との懇親会を横浜港が臨めるポートヒル横浜で行いました。デオリ参事官の横浜訪問は今年の1月に続き2回目となります。当協会からも11名が参加しました。この建物から望む港の光景は素晴らしく参事官も大変喜んでおられました。この場所で初めに下山会長からバルセロナで



起きたテロ事件に関する哀悼の意とお見舞い、日西文化交流に関するスペイン文化の一層の交流、また、大使館の関係者の墓参が両国交流のシンボルとなっていることの挨拶を行いました。デオリ参事官からは昨年日本に来日してからの猛勉強で鍛えた日本語のスピーチで、横浜スペイン協会に対する感謝の挨拶がありました。その後の懇親会はデオリ参事官を中心にして参事官の気さくな人柄と優しさの中、和やかな雰囲気の中でいろいろな歓談を続け大変に楽しい時間を過ごしました。この懇親会のあと、全員で墓地へ向かいました。今夏一番の炎天下の中の墓参でしたが、デオリ参事官が墓前に花輪を捧げ、参加者全員で故人の冥福をお祈りしました。今後も外人墓地への墓参がスペイン大使館と我々との交流のシンボルとなることと思われた一日でした。(武菱邦夫)



<カスティージョ大使のお墓掃除をする理事>

(参考) 外人墓地墓参の経緯

1954年6月17日フランシスコ・デル・カスティージョ大使在任中に死去 外人墓地に埋葬

- * 1991年6月18日(26年前) アントニオ・デ・オヤルサル元大使ご参列
- * 2003年6月17日(14年前) ハビエル・コンデ元大使ご参列
- * 2011年8月11日(6年前) ミゲル・アンヘル・ナバーロ元大使ご参列
- * 2015年5月17日(2年前) ゴンサロ・デ・ベニート大使ご参列

●スペイン語クラス

今年で9回目となった夏期スペイン語文化講座は3人の講師を迎え開講致しました。テーマは講師のそれぞれの個性が反映されたものであり中身の濃い講座となりました。猛暑の中、熱心に参加された皆様からはすでに来年の講座に期待を寄せる声が聴かれるほど実りの多い夏期講座でした。(福長昭代)

<2017年度夏期講座を受講して>

今年も恒例の夏期講座が7月26日から8月28日まで開催されました。3名の講師による6回の講義でした。Fran先生の講義はイスラムのイベリア半島侵攻からレコンキスタの最終段階のグラナダ陥落までの歴史とスペイン語の多様性についてでした。バスク語についてはその起源は諸説ありますが私は起源不明と理解していました。Franさんは「バスク語はウラル・アルタイ語の系統」と断言されており、最近その様な結論に至る研究があったのかもしれませんが。Victor先生のテーマはカタルーニャ独立運動の歴史と現状で

した。多くの地中海沿岸諸国や地域を植民地として地中海貿易で栄えた過去の栄光へのセンチメンタリズムや王位継承戦争に敗れスペイン王国に統合された恨み等から独立を求める人もいますがもっと現実的な視点から、独立ではなくスペインの一自治州としての枠組みの中で条件闘争を重ねていくべきとの意見でした。Juan 先生はスペインの習慣や人間関係と Juan Ramón Jimenez に関する講義でした。意外だったのは多くのスペイン人は電話をかける時は絶対に自分から名乗らないということでした。私はセキュリティ上の理由から電話を受けても相手が誰か確認できるまで名乗ることはしませんが一度スペイン人からの電話を受けてどの様なやり取りになるか試してみたい気がします。来年もまたワクワクするような講座を企画して頂ける事を期待しております。(宮岡栄一)

<夏期講座に参加して> (前半の講座に参加)

今回はどのテーマをとってもスペインが不変のものではなく Castilla, Cataluña, Vasco などの個性豊かな諸地域が歴史を通じて協働と対立を繰り返す中でゆっくりと立ち現れて、スペイン国家と諸地域との関係は、現在でも重い意味を持っていることがよくわかる内容でした。スペインの歴史を学べば学ぶほどに国が国境とは無関係に展開してきて、国家の実態は地域の在り方に依りて 複雑に歩んできたことがよくわかり、それがスペインの多様性を感じさせる大きな魅力だと思います。多言語のトピックスの中で注意すべきことは、州内公用語が、スペインとその「方言」の関係にあるのではなく、それぞれが中世以降の歴史の中でラテン語から成長してきた対等な「言語」ということらしいです。そして言語は、政治や経済も関わり変化していくもので、イスラム文明がスペインにもたらしたアラビア語がレコンキスタと後の宗教統一政策を経て国から消滅したものの、スペイン語にはアラビア語起源の単語も多く存在することも過去の歴史背景を感じさせると思います。(新聞・雑誌をスペイン語で読むクラス 伊久美智子)



第 11 回スペイン語クラス委員会

7月19日(水)、第11回スペイン語クラス委員会が開催されました。出席者は担当役員、委員など合計9名。議題は2017年度前期の各クラスの運営状況と後期に向けての意見交換です。前期は開講中8クラスの受講生も順調に増加し、定員一杯のクラスも出て来ました。各々運営に工夫を凝らし活発に活動しております。後半に向けて7月下旬から開講の夏期スペイン語文化講座も30名近い申し込みがあり講師、受講生の熱意溢れた講座が展開されそうです。また後期は入門クラスとして「アサレアクラス」を新設。特別講座として吉田彩子先生の「ドン・キホーテを読むための特別講座」が月1回開講します。来期はその続編を予定しております。今後とも講師、クラス委員が一致団結の上ますます充実した活動とすることを確認しクラス委員会を終了しました。(セレソクラス委員 中田博久)

<お知らせ>

10月から「初めてのスペイン語—入門クラス」(3回/月)と特別講座「ドン・キホーテ」を読むための基礎知識(1回/月 日本語で講義)がスタートしました。担当はいずれもベテラン講師です。

お問い合わせ先: aiyes.supeingo.kurasu@gmail.com

●スペイン・サロン

「ドン・キホーテに見る黄金世紀のマイノリティ」

2017. 6. 17 於波止場会館

前回 6/17 のスペイン・サロンは清泉女子大名誉教授吉田彩子先生による「ドンキホーテに見る黄金世紀のマイノリティ」という講演でした。黄金世紀とはレコンキスタ終焉後の 16・17 世紀のスペイン及びスペイン文化の黄金時代のことですが、名作ドンキホーテを書いたセルバンテスはまさにこの時代の人です。講演ではこの時期のユダヤ人、改宗ユダヤ人（迫害されてカトリックに）、モリスコ（カトリックに改宗したイスラム教徒）、ヒターノ（スペインのロマ）などいわゆる虐げられた人々をこの小説がどのように扱っているかを話されました。小説中の記述は少ないようですが、興味深かったのはセルバンテス自身が改宗ユダヤ人の家系であったという説があること、カルロス 1



世からフェリペ 2・3 世となるにつれて迫害の度が増すモリスコや、当初は歓迎されたのに後に弾圧されるヒターノらに対するセルバンテスの眼は、社会通念を認めつつも彼らに同情的であることでした。写真や絵画を多用したスライドと語り口のうまさで 40 名の会員で満杯の会場には熱気がこもり、懇親会にも 30 名近くが集まって大盛会でした。秋には関連する連続講座もあるようで、今後の企画も期待大です。（佐竹信一）

劇場型スペイン政治と王室

2017. 9. 30 於県民サポートセンター

今回のスペインサロンは、日本大学商学部准教授の細田晴子先生をお迎えし、「劇場型スペイン政治と王室」というテーマでお話し下さいました。まず劇場型とは、演劇やドラマの一部であるかの様な事。予め決まった台本があるかのように、巧妙に進展したり、周囲の人間や関わっている人々を魅了したり、圧倒する様な演出に溢れている事（実用日本語表現辞典より）。こういう見方も出来るかと思いつつ、講演を伺ってみると確かにその様に思いました。スペインは 19 世紀以降、立憲君主制、共和制、独裁制と色々な政体が成立しました。またファン・カルロス 1 世は、王室外交を繰り広げ、庶民の味方という構図を作り上げ、国民の関心を引き寄せました。異例の退位も スキャンダル続きで 決断されたのでしょうか。（台本の起承転結の転と私は思いました）現国王フェリペ 6 世は、バルセロナオリンピックの時ヨット選手として出場しています。レティシア王妃は、ザラやマンゴなどの自国のファッションを何気なく着こなす、そのセンスはキャサリン妃同様、高く評価されています。他にも沢山のエピソード等有りスペインに関しての話は尽きません。（佐藤順子）



●旅でスペインを識ろう会

9 月の「旅の会」は小関敏雄氏の「真夏のカスティージャ・イ・レオン ロマネスク探訪」でした。今年度入会した私には新しい刺激で、旅は専門的な知識を持っているとすごく楽しくなること

を改めて知りました。お話は、Castilla y Leon 州の各地に点在するロマネスク建築の教会内部の彫刻についての解説から始まりました。外観はとてもシンプルで、知識なく旅している者には立ち寄らない所に、これほどの彫刻があったのには驚きでした。また、アルピア、ガルダ、ケンタウルスなどの彫刻にも気付かされました。紹介された教会には近くまで行っているのに通過していました。特に、Silos の Monasterio de Santo Domingo の捻じれた柱や4隅の柱頭彫刻の紹介では、知識がなかったので何の感銘も得られず、修道院のまわりを、ただただブラブラ歩きをしていただけでした。次回の旅は知識を溜めて楽しくしようと思わされたお話でした。(胡桃澤恒二)

●国際交流活動

「お遍路、海越える 世界遺産目指し!」 ～ 四国遍路展開会式に参加して ～

当協会の会員の、さくら植樹プロジェクト委員の間屋正勝氏を通じて、主催者の「『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会」千葉昭会長（四国経済連合会会長）よりお招きに預かり、サンティアゴ・デ・コンポステーラにて開催された四国遍路展開会式に参加して来ました。この四国遍路展はサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂の真向かいにある州立巡礼博物館で7月21日から9月24日まで約2ヶ月間開催され、四国遍路の歴史や世界遺産登録に向けた取り組みを、写真パネル約40枚と江戸時代の納め札、弘法大師像などの実物の資料約15点を展示しています。7月21日の開会式には100人程度入れるモダンな博物館の講堂に満員の人たちが集まりました。四国からは5人の僧侶を含めて30人以上が参加。会場では日本の古い伝統、文化が残る四国遍路に関心を持つ現地の方々が興味深そうに展示物を見ているのがとても印象的でした。開会式に続き懇親会にもお招きを受け、千葉昭会長を始めとして遍路とおもてなしのネットワーク宍戸栄徳事務局長ともお話する機会があり、日本文化の紹介、市民交流等で横浜スペイン協会として何かコラボレーションが出来ないかと考えております。今回、展示会場に隣接する大聖堂の厳粛な巡礼者の為のミサに参加する機会に恵まれました。その最後のクライマックスには天井からつるされた巨大な香炉をロープで引っ張りながら振り回すという非常に興味深いボタフメイロの儀式 (Botafumeiro) を目の当たりにして心が洗われる思いが致しました。(会長 下山利明)



「Fiesta Nacional de España」

昨年続き、本年もスペイン大使館主催のナショナルデーレセプションにお招きを頂き、横浜スペイン協会の代表として会長と夫妻で出席して参りました。ナショナルデーとは1492年10月12日にコロンブスによるアメリカ大陸の発見をお祝いする日です。公邸エントランスにて大使ご夫妻にご挨拶の後、会場の庭園へ。冒頭の大使のご挨拶では、スペインと日本の皇室との密接な関係、両国の平和・パートナーシップ関係、また外交樹立150周年等について触れられ今後も両国間での更なる関係強化の協力と支援の要請をされました。お料理は立食で100人前の巨大パエージャ、生ハム、ピンチョス、チュロス…をスペインのワインといただきながら、友好協会関係者との情報交換と親睦を深めました。会場の皆さんは誰もがスペインと関係のあるスペイン好きな方ばかりなので、初対面でも気楽に楽しい会話が弾みました。横浜スペイン協会会員では間屋正勝さん、桜田ゆみご夫妻がご招待されていました。(下山綾子)



●シネマサロン

「オリーブの樹は呼んでいる」・ El Olivo

監督 Icíar Bollain 2016年、スペイン映画



樹齢 2000 年というオリーブの樹が圧倒的存在感を示す。

祖父が大切にしていたそのオリーブの樹を父親が売ってしまった。それ以来元気をなくしてしまった祖父のために、孫娘・アルマがその樹を取り返そうとする。調べてみるとそれはドイツのある大企業のビルの中にあることがわかる。アルマは策を凝らし嘘をでっちあげ、叔父と同僚を巻き込んでドイツへ巨大トレーラーを走らせる。途中 SNS を使った友達の協力やドイツの自然保護団体の援助も受ける。それはビルのエントランスホールにあった。枝を取り払われて運ばれたがしっかりと若葉を伸ばし、風格あるたたずまいで存在していた。

どのようにして持ち出すか？自然保護団体はデモをしてくれたが、ビルの警備員たちに阻まれたアルマはついに樹に登ってしまう。昔祖父と登って遊んだように。だがむりやり降ろされてしまう。祖父が亡くなったとの連絡も入り、トレーラーは帰途に就く。だがアルマの手には一本の若枝が握られていた。祖父が教えてくれたように接ぎ木をして、巨木の並ぶオリーブ畑の隅に植える。

いま、スペイン・ポルトガルのオリーブの古木を企業がそのアピールのため、個人が家のシンボルツリーにと買い取るという現実があるそうです。(松本益代)

●マドリッド便り ～ スペイン歴史探訪

<歴史から見たスペインと日本の出会い>

スペインと日本の最初の出会いは、宣教師ザビエルの 1549 年渡来から始まりその後天正遣欧少年使節が 1582 年、そして慶長遣欧使節が 1614 年にそれぞれスペイン国王に謁見を受けました。しかし両使節とも幕府の公式なミッションではなく日本とスペインの外交関係が存在したとは言えません。確かに戦国時代で国政を賄う幕府が存在しなかった事情はありましたが 1600 年に徳川幕府が天下を取ると間もなく鎖国令が出されスペインとの関係は明治維新まで途絶えることとなります。当時スペインから見た日本は、太平洋に浮かぶ取るに足らない島国で、新生スペインメキシコの太平洋アジア管轄のフィリピンが日本関係の担当だった為、日本の事情はスペインには殆ど報告されていなかったと判断できます。これに反して日本ではスペインが世界帝国であり大型船造船技術や銀精製技術等を学ぶ必要があったことから、幕府は如何にしてもスペインとの友好関係の保持を一番の外交政策として打ち出していました。1600 年にオランダ船が到来し幕府にとって重大な事実が明らかとなります。これはオランダ船の航海士イギリス人アダムスが家康の家臣となりスペイン外交顧問になったころの出来事ですが、日本名三浦按針は家康に世界地図を見せ世界中がスペインによって支配されていること、また按針は南蛮人でもスペイン人ではなくスペインの敵国であるイングランド人であり宗教もカトリックでなくプロテスタントであることを説明。日本にカトリック教が広がりキリシタン大名の数も増え、信者の数は 70 万人で将来日本中にカトリック教が広がれば幕府の存在は極めて不安定となり、スペインが日本支配のため軍事力を送りキリシタン大名と組んで反乱を起こせばこれに対処することは難しく、スペインの植民地になってしまう危険があることを暗示します。実際には当時スペインは広大な領地を維持管理するが精一杯で新たに領地を拡大する時代は終わっていましたが、オランダやイングランドは何としてでもスペインを日本から追い出しスペインのアジアでの交易を横取りする為国を挙げて戦っていたこともあり、彼らの説

得力が効を奏し徳川幕府はキリスト教の禁止とスペインとの国交断絶を決断し、鎖国令を発令し同時にオランダを優遇し平戸にオランダだけに海外貿易を許可しました。このような訳で日本とスペインの関係は今から467年前ザビエルの来日以来60年余りで終わり20世紀に入るまで再開しませんでした。にもかかわらずスペインが日本史に大きな影響を与えた事は明らかです。(鈴木裕)



<鹿児島市ザビエル記念碑と平戸のカトリック教会>

さて、AIYES 通信 79 号 (2016. 11. 1 発行) から連載が続いてきた「スペイン歴史探訪」は今回で最終回です。鈴木裕氏の著書のご紹介をしておきます。ご興味のある方はぜひ入手されてみてはいかがでしょうか?

「Personajes del siglo XV」 Orígenes del Imperio español

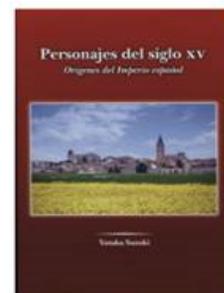
「15 世紀の重要人物」スペイン帝国の起源

スペイン語の本はスペインの書店で、英語版は ebook でネット購入可能です。

(関連リンク) <http://www.marcialpons.es/libros/personajes-del-siglo-xv/9788460690399/>

[https://www.amazon.co.jp/People-fifteenth-century-origins-Spanish-](https://www.amazon.co.jp/People-fifteenth-century-origins-Spanish-ebook/dp/B06XRM7JVC/ref=pd_rhf_se_p_img_1?encoding=UTF8&psc=1&refRID=3DS7NNR55P6SV051BOGK)

[ebook/dp/B06XRM7JVC/ref=pd_rhf_se_p_img_1?encoding=UTF8&psc=1&refRID=3DS7NNR55P6SV051BOGK](https://www.amazon.co.jp/People-fifteenth-century-origins-Spanish-ebook/dp/B06XRM7JVC/ref=pd_rhf_se_p_img_1?encoding=UTF8&psc=1&refRID=3DS7NNR55P6SV051BOGK)



●会員活動報告

はじめてのサルスエラ

2017. 9. 9 於月島スペインクラブ

2001 年 1 月 31 日に日本サルスエラ協会を立ち上げた横浜スペイン協会会員の桜田ゆみさんが、来年 2018 年の日西外交 150 年の記念の年を迎えるにあたり、約 350 年の歴史を持つこのスペインの伝統芸能サルスエラの日本国内での公演活動と啓蒙活動を一層強化すべく企画したとても楽しい催しでした。会場の月島スペインクラブはスペイン通にはよく知られたお店でスペインの食材 100% のレストラン・バールであるのみならずフラメンコやスペインミュージシャンによる定期的なステージが楽しめます。当日は、サルスエラのステージを初めて観る参加者を対象に解説も交えながら、桜田ゆみさんのソプラノと小野勉さんのテノールを中心に、更に当日のランチセミナー参加者の半数が飛び入り参加してのオペラ講談「カルメン」サルスエラでセミナーの幕を閉じ続いて月島スペインクラブの美味しいランチコースを堪能しました。(山崎宗城)



<桜田ゆみ講師> 日本サルスエラ協会 www.zarzuela.jp

ホセ・マリア・ガジャルド・デル・レイと高木洋子さんのコンサート

2017. 10. 1 於磯子区民文化センター 杉田劇場

彼が世界的なギタリストだとも知らず、のんびり開演を待つこと 20 分。なんだか神経質そうな演者が舞台に現れた。彼は睨みつけるような視線でこちらを見ている。まずは入念にギターを音をチェック。そして直前には、まるでイチローのようなルーティーンのような動作があり、こちらでも思わず緊張。ところが演奏に入ると、心地良い音色と響きに知らないうちに聴き入っていた！続いて高木洋子さんのピアノ。そして二人の競演。素晴らし



いコンビネーションで感動した。特にアランフェス協奏曲は唯一知っている曲だったこともあり、まだ見ぬ風景が浮かび、行きたい思いが沸き上がってきた。最後の演奏曲が終わるとアンコールの拍手が鳴り止まず、さらに2曲も演奏。またまた感激！ 終演後のワインで、横浜スペイン協会のメンバーとも歓談。また機会があったら、行きたいですね。(江口吉光)

●会員からの投稿

iViva 横浜スペイン協会！

私は2017年6月29日、ついに幸喜高齢者(後期高齢者)になりました。後期高齢者らしく、色々な病気を抱えています。特に、難聴はスペイン語の学習に大きな障害となりますが、自分なりに努力して、通訳ガイドができるようになりたいと思っています。たとえ、難題は抱えていても、今私は、人生で最も充実した、楽しい時間を過ごしています。それは、横浜スペイン協会との出会いです。山田先生の楽しく分かりやすい授業、muy simpáticosなクラスメートたち、club2020の仲間たち。とにかく人生を意欲的に、前向きに生きる人たちとの出会いが、私の人生の最終章を、とても楽しい輝かしいものにしてきているのです。でも、その輝かしい人生の扉を開いてくれたのは、たった一人の女性でした。私の箏のお弟子さんであり、アマポーラクラスの先輩である、樋口さんという方です。一人のかたとの出会いによって、私の人生の最終章は、輝くものとなりました。人生における出会いの大切さ！私のような“tímido”な人間でも、大海原に出ることが出来るのです。Muchas gracias, señora Higuchi. ¡Viva 横浜スペイン協会！(池田昭一)

《横浜スペイン協会 後援コンサート、等》

*柳貞子クリスマスコンサート No. 31

～クリスマスに愛と平和を～

共演：柴田杏里(ギター/編曲) 武井裕晃(ギター)

日程：12月9日(土) 13:30 開場 14:00 開演

会場：音楽の友ホール チケット:5000円

お問い合わせ先：柳貞子 TEL/FAX:042-734-5569

*第2回スペイン音楽国際コンクール 本選会

開催部門：ギター・声楽・ピアノ・ヴァイオリン

主催：一般社団法人日本スペイン音楽文化協会 代表 滝澤三枝子

日程：12月17日(日) 9:20 開場 9:40 開演

会場：高輪区民センター 入場無料(申し込み不要)

お問合せ：コンクール事務局 090-2407-4064(稲原)

*サルスエラ「パロマの前夜祭」

～スペイン日本外交150周年、サルスエラ誕生350周年記念公演～

日本語台本・演出：桜田ゆみ(日本サルスエラ協会代表)

日程：2018年1月18日(木)

会場：代々木上原 「MUSICASA」 チケット:4000円

お問い合わせ先：日本サルスエラ協会

協会からのお知らせ

次回スペイン・サロンのお知らせ「スペイン料理を作って食べる会」

日時 : 12月3日(日) (13:30~17:00)

会場 : 技能文化会館 料理研修室

演者 : 丸山久美 (スペイン家庭料理研究家)

演目 : 冬に嬉しいスペインの郷土料理

連絡先 : Tel&Fax: : 0467-43-6973(服部)

kfk.2010@clear.ocn.ne.jp (服部) / norih0703@gmail.com(平本)

※ 詳細は、協会ホームページまたはチラシをご覧ください

***** 新会員紹介 *****

落合 恵子 (Keiko Ochiai) 町田市在住 2017年6月入会

福長さんの古い友人で以前より各種イベントに呼んでいただいております。
スペイン語の素養はありませんが、スペイン及びスペイン語圏には興味があります。

朝倉 聡 (Satoshi Asakura) 横浜市戸塚区在住 2017年7月入会

スペイン旅行して以来、スペインの歴史・文化に興味を持っています。スペインの歴史が持つ光と影のコントラストが大変興味深く、併せてスペイン語も独学で勉強しています。いつの日かスペイン語を母国語とするひとたちとコミュニケーションを図ること、サグラダ・ファミリアが完成を見る2026年にはバルセロナのBarで美味しい料理とお酒を楽しんでいることを目指して、スペインの文化と歴史に触れる機会を持ちたく入会を希望します。

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア1杯無料
アトリエ・フレア Atlier Flair	鎌倉市城廻501-6	0467-42-8531	フレーム 15%off
スペインバル ボデガ・デ・サリア	東京都港区台場2-2-1 サ・ターズ・ダ・イ・アネックスホール1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

<編集後記> 棒付きのキャンディー・チュップチャプスのロゴデザインが、かの有名なスペインの画家・サルバドール・ダリによるものというのは、スペイン好きの皆様はもちろご存知だと思います。100種類以上あるフレーバーに加え9月に大人のチュップチャプスとして2種類のフレーバーが発売されたとのこと。ほろ苦さの『ダークエスプレッソ』とフルーツカクテルのイメージ『サングリア』です。私はまだ試していません。ところで、どこで買えるのかな。(編集長・AS)

編集長 / 下山綾子

編集委員 / 白井慎一 古賀恵子 下山利明 武菱邦夫 服部君江 福長昭代

*投稿寄稿宛先
横浜スペイン協会

E-mail : info@yokohama-spain.jp
ホームページ : <http://www.yokohama-spain.jp/>

次回の原稿締切は
12月5日(火)です